



夢よはばたけ!「25の小さな夢基金」 第3期生20名の旅立ちと、初めての「夢を語る」同窓会開催! 6月30日~7月7日ふれあいの旅、ご報告



日本・雲南聯誼
協会の卒業式
ツアードに、2年ぶりに参
加させていただきました。猛暑
の日本から、「四季春の如し」の昆明へ、1週間の避暑ツアードです。
今回初めての試みとして、春苗卒業生と在校生、それに我々日本か
らの一行を交えての大交流会が催されました。名付けて、「夢を語る同窓会」。

卒業式の翌日2日、我々の宿泊先「頬池大酒店」には、朝早くから
たくさんの方々が集まりました。昆明特命支部長平田栄一氏をはじめ、前日の卒業式を含め同窓会の通訳をしてくださる雲南大学日本語学科講師の高明先生、そして大勢の同大学日本語学科学生ボランティア20名余り、春苗の卒業生22名、在校生16名が我々ともに広い会場を埋め尽しました。総勢80名以上です。それは、単に数が多いということではなく、惠蘭理事長の「夢を語る同窓会」への熱い想いが形になって表れたものであります。参加者もまた、それぞれに大きな期待を胸に集まつたのであります。会場は、和やかな中にも、熱気に包まれた状態となりました。

理事長、来賓挨拶後の交流会では、先ず我々「ふれあいの旅」の参加者自己紹介から始まり、春苗卒業生・在校生代表の挨拶、通訳ボランティア代表の自己紹介、と続きました。私たち日本側は、一人ひとり自由に経歴や思い、雲南との縁などについて話しました。1時間以上にわたりましたが、春苗の生徒、卒業生を含めた雲南の人たちに協会の人たちのことを知つてもらうことで、聯誼協会の活動全体への理解も深められました。

ホテルのレストランでの昼食懇親会も大変楽しいものでした。私のテーブルには、2人のボランティア通訳がついてくれて、春苗の卒業生や在校生と民族の習慣や大学生活のことなど、話に花が咲きました。ただ、日本についての話題が少なかったので、彼女たちに日本のどんなことに興味があり、どんなことを知りたいかと聞き出すべきであった反省しました。

午後は、同じ会場で、卒業生と在校生が小グループに分かれて交流しました。今後の課題として、現地学生ボランティア同士の交流を行なうことや春苗卒業生進学先大学ごとにボランティアグループを作っていくことなどについて討議しました。惠蘭理事長の言葉からは、協会設立10周年の節目を経て、さらに、中日の草の根交流をも活動のうちに取り込んでいくという強い意欲が感じられました。20周年を迎える頃には、日本と雲南にどちら、日本と中国との眞の「心のつながり」が育つといであります。

最後になりましたが、会場に入って、真っ先に感じた視線は、写真と手紙でしか知らない里子たちと昨夏東京で1日半と共に過ごした3人の生徒たちのそれでした。3人は、まさに一年ぶりの「再会」。彼女たちの笑顔に見れただけでも、雲南に来た甲斐があるというほどに感動がありました。

初対面の里子たちは、少しづつにかんで、美しい目を輝かせていま

した。目がものを言うとはこのことです。来年の今頃は、彼女たちの卒業式です。「再会」を現実にしたいと、つたない英語で「来年、また必ず昆明に来ます!あなた方におめでとうを言うために」と宣言しました。

本当に、ふれあいいっぱいの素晴らしい旅でした。羅平の多依鄉に

分け入り、今期卒業の劉さんのお宅の庭先でご家族と夕食を共にで

きたことも、周囲の桂林の風景の美しさも忘れられません。

お金や財産、地位などは、何かの拍子に失つてしまつこともあります。学んで身についたもの、こうしたすばらしい体験で得られた感動は、誰も奪うことは出来ないし、失われることもありません。聯誼協会の支援活動の意義も、この点にあると思います。

(近藤鉄一=協会会員・名古屋支部長)

「25の小さな夢基金」ふれあいの旅・卒業式・同窓会参加者(職員・教務部)

佐々木英介、久藤智弘、奥越政久、平田栄一、平田紀子、松岡慶子、近藤鉄一、

佐藤芳明、富樫政則、富樺とも子、高橋竹夫、高橋みさこ、三木秀隆、

津波義男、余鶴樹(中島弘樹さん代理)、佐伯義博、大泉國雄、長谷川尚司、

初鹿野惠蘭、林郷・王海琳(雲南支部事務局)、高橋瑞季(東京本部事務局)

雲南を彩る25の星たち 連載第18回 特別編!「25の小さな夢基金」 ブイ族の故郷を訪ねる!

今回の「25の小さな夢基金」ふれ
あいの旅では、基金で勉強する春苗
クラス新1年生の女子・劉星蓮さん
の故郷を訪ねました。劉さんは雲
南東部・羅平出身のブイ族です。

ブイ族はベトナムと中国に分布す
る民族で、中国国内では255万人、
そのうち約55,000人が雲南省曲
靖市の中羅平に暮らしています。チワ
ン族同様、古代に稻作文明を創造した「百越」が祖先と考えられていますが、史記に「有名な夜郎国」とも関係があると言われています。現在でも古
越の農耕習慣を色濃く残して、閣干式の家屋や剥製の太鼓などに大き
な特徴があります。織物、ろくつけ染め、銅器製作など工芸に長けてい
て、中でもうけたけめの筋巧なうえに芸術性が高く、歌や日本、東南ア
ジアでも人気があります。

今回、ふれあいの旅一行が宿泊した劉さんは5人家族で、広
西チワン族自治区から移住されたそうです。お父さんは雲南の出身でいら
っしゃるとか、劉さんが、民族文化や故郷について紹介したエッセイを協
会ブログに掲載していますので、是非ご覧ください。
(http://panpon.canpon.info/yunnan/archive/419)

ブイ族は、口承文学や山歌などの文化にも富んでいて、春節や端午節など一般的な祝日のほかに、「二月二」「三月三」「四月八」「六月六」といった民族色豊かな独特の祭日も現代まで伝わっています。詳しいは劉さんのエッ
セイをご覧ください!

「ここにちはCSR」 一協会を長年支えてくださっている法人会員企業からのメッセージ
逆に、私があの子たちから『夢』を頂いています

■第3回 メディネットインターナショナル株式会社 三木秀隆取締役社長

「25の小さな夢基金」卒業生と現役生が参加する記念すべき第1回「夢を語る同窓会」は、第3期生20名が無事卒立った翌日の7月2日、雲南省昆明市の滇池ホテル内で開かれました。日本から駆けつけたセンター、夢基金の第1期生・2期生、学生ボランティア通訳、協会事務局を含めた総勢90名が参加し交流を深めました。

同窓会の開催に多大なご支援をいただいたメディネットインターナショナル株式会社取締役社長の三木秀隆氏は、ご挨拶の中で「いかがなたたちの中からノーベル賞受賞者がお出るかもしれませんね」と今後、注目すべき感想を述べました。2008年夏にご尽力いただきました、たまごワロタリークラブの招聘で来日した3人の生徒さんとの久々の再会には、頬を緩ませていました。



▲2009年夏、たまごワロタリークラブの招聘で来日した彼女たちも、今は立派な大学生。当時の会長として来日事業にご尽力くださった三木さんと「夢は語る」同窓会で、2年ぶりの再会です。

【会社概要】

平成9年4月1日設立。診療所の経営及び管理業務や医療コンサルタントが主業務。1988年に上海に日系医療機関として初めて「上海森茂診療所」を開院。2011年6月、最先端の医療施設を拡充し健診診断サービスを強化しリニューアルオープン。9月23日には上海で内覧・パーティーを計画。日本では秋分の日の祝日に当たり大勢の関係者が駆けつける。2006年には「蘇州森茂診療所」も開院している。

所在地: 神奈川県川崎市多摩区菅仙谷4丁目1番5号

TEL:044-969-7141 FAX:044-953-5024 http://medinet-int.jp

*CSR=Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任): 利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

「協会の事業活動に深く感謝を受け入会しました」と述べる三木氏は、「私の行為は聯誼協会に寄付することやボランティアを目的として行っているではありません。あの純真で一生懸命に生きようとする子どもたちを通じて、逆に私が『夢』を頂いており、その代償としていくつかをご協力させていただいているだけです」とあくまで謙虚。人柄が滲み出る優しい言葉が非常に印象的でした。

医療ビジネスに関しては「患者さまには薬以外に渡すものではなく『良かったと言っていただけ』が非常に大事になってきます」と強調。「してあげる『見てあげる』ではない、真剣に『誠意をもって相手を思うことが重要であり、そして『雲南の子どもたちからは、逆にそのような生きることの原点を教えてもらっている気がします。そのような意味では、医療とボランティアは底通しているところがあります』と持論を展開。ボランティア活動には懇親性が求められるとも述べ、今後も協会の活動を支援していただける意向を示されました。今後ともよろしくお願いいたします。



**協会写真展「笑顔を君に」、
ただいま全国巡回中!**

協会写真展「笑顔を君に」が、ただいま全国巡回しております。6月の大分、7月の埼玉での開催は大盛況のうちに終了いたしました。ご来場いただいた皆さま、本当にありがとうございました。今回の写真展は、昨年10周年を迎えた協会の活動を改めて振り返ると共に、より多くの方に協会の活動を知っていただきを目的しています。これまでに協会が出会った笑顔を中心に、「50の小学校プロジェクト」「25の小さな夢基金」「小さなカメラマン」など各プロジェクトの紹介や、先月行われたばかりの「25の小さな夢基金」第3期生卒業式「夢を語る」同窓会で撮影した写真の展示も行います。お近くの方はぜひお立ち寄り下さい!



今後の開催日程

8月23日(火)~9月4日(火) 東京 JICA地球ひろば
 12月13日(火)~12月18日(日) 福岡 NHKギャラリー

「笑・xiao・」庄司智哉さんより写真展のご報告

大分県別府市の立命館アジア太平洋大学にて行なった写真展では、約120名の方にご来場いただきました。カラフルな民族衣装を纏った笑顔の子どもたちの写真と、私たちの生活レベルとはかけ離れた貧しい生活をしている様子を写した写真とのギャップに、来場者からは驚きの声が聞かれ、設置していた感想ノートは「感動しました!」や「是非雲南に行ってみたい」といった意見で埋め尽くされました。今回の写真展により、雲南の知名度の向上や中国のイメージ改善ができ、本当によかったです。

**日本全国から会員が集結!
 第11回定時総会開催!**



2011年6月19日、定款第23条に基づき初鹿野惠蘭理事長が総会を招集、東京都八王子市学園都市センターで、第11回となる日本雲南聯誼協会・定時総会が開催されました。当日は千葉県浦安市や山形県などの遠方にお住まいの会員の方々も駆けつけてください、例年通り、熱氣溢れる定時総会となりました。

今年の総会は司会を中村有里子理事、議長を遠藤功理事が担当し、活動経過報告、決算、今年度活動計画、収支予算案の4つの議案が可決されました。2010年度には支援校2校が開校し、「25の小さな夢基金」第2期生42名が卒業、JICA草の根技術協力事業としての「100万回の手洗いプロジェクト」も完了を迎えましたが、何よりも、皆さんのご支援により10年目の節目を迎えたことが大きな喜びでした。会では、議事の他にこれらの活動を分かりやすくまとめた映像が放映されました。

また、今年度より「東日本大震災支援交流プロジェクト」が動き出しました。昨年度末の震災発生以来、雲南の市民、支援小学校の児童、そして地方団体などからたくさんの励ましやご支援を頂いたのは、以前もお伝えした通りです。プロジェクトでは、これらを通じて雲南から届いた想いを被災地の子どもたちに伝え、やがてはお互いが勇気付けられるような双方向の交流のお手伝いをしていく予定です。総会では、第1弾として5月に「女川第二小学校」を訪問したこと、そして第二弾の支援交流校が宮城県亘理町の「長瀬小学校」に決定したこと(※7月20日に訪問しました!)が初鹿野理事長より報告されました。また、同プロジェクトが6月11日付で国税庁より指定寄附金対象事業の確認を受けたことも、合わせて報告されました。

議事が全て終了した後、長瀬小学校との架け橋になってくださった新井淳一顧問、山形から駆けつけてくださった会員の佐藤芳明さん、同じく会員の竹内達さんからご挨拶を頂戴しました。多くの会員、協力者の皆様に支えられながら、聯誼協会は今年度も精力的に活動して参りたいと思います。

【当日ご参加の皆様(順不同)】初鹿野惠蘭理事長、杉谷隆志専務理事、初鹿野薰理事、北原茂実理事、遠藤功理事、中村有里子理事、大鷲修平理事、佃純誠監事、村松健児監事、片岡巖顧問、東郷浩顧問、新井淳一顧問、山根祥利顧問、井手彌剛様、佐藤芳明様、木本一彰様、初鹿野道子様、初鹿野仁様、竹本達様、林則幸様、滝澤崇様、事務局(山田美穂、高橋瑞季)

平田特命支部長インタビュー! その2

明日のスターを夢見て



昆明市街のほとんどの公園に「翠湖(スイフ)公園」がある。周囲3kmほどの小さな池に沿って歩道と並木が整備され、その周辺にはヨーロッパの町並みを思わせる、ちょっと洒落た高層住宅が並んでいます。公園の北側には雲南大学の森があり、西側にはかつて辛亥革命から抗日戦争時代にかけて高級軍人を排出した「陸軍講武堂」が国家级歴史記念建築物として保存されている。公園を取り囲む並木が表参道を思い起こさせ、私のお気に入りの場所の一つでもあります。3月のある日、大学からの帰り道、いつものように翠湖公園の歩道を歩いていたときギターの弾き語りが聞こえてきました。音楽は素人ですが、その歌唱力に気を引かれて聞き入ってしまいました。

土曜日曜に昆明の繁華街に行くと至る所でギターをかき鳴らしながら歌う若者の姿を見る事ができる。その姿は60年代、70年代の東京を思い出させる。昆明唯一の歓楽街「昆都(クンドゥ)」に行くと、夜な夜なロック音楽が巷に溢れ若者が身を揺すんでいる。いまや「改革開放」は死語になりつつあるようだ。西洋化の波に飲み込まれた新しい若者文化が昆明に生まれている。

翠湖公園で出会った周さんはプロを目指していると恥ずかしそうに語ってくれた。彼も現代中国の若者の一人である。



周雲峰さん
 24歳/妻と子の3人家族/職業: 工員
 いちばん大切なものはなに? : 母親と歌
 夢はありますか? : プロ歌手になること
 現在、幸福ですか?:もちろん!
 いちばん尊敬する人は?: 母親

現在昆明に留学中の会員・平田栄一さんが
 特命支部長として、皆さんに雲南の今をお伝えします!

